

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 12 日現在

機関番号：14501
研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2008～2012
課題番号：20251009
研究課題名（和文） 「先住民」のアイデンティティの交渉

研究課題名（英文） Negotiation of Indigenous Identity

研究代表者

窪田 幸子（KUBOTA SACHIKO）
神戸大学・大学院国際文化学研究所・教授
研究者番号：80268507

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：人文学 A・文化人類学・民俗学

キーワード：先住民、オーストラリア、国家、政策、権利

1. 研究計画の概要

本研究は、20 世紀末から影響力を増してきた国際的なイデオロギーとしての「先住民」概念を中心に、このような国際世論と、国家の少数民族政策の影響のもと、少数者である彼らが近代国家の枠組みの中で、どのように主流社会と交渉し、自己のアイデンティティを構築していくのか、その動態を明らかにすることを目的とするものである。本研究の特徴は、世界各国の少数者を専門とする調査者が、オーストラリアを比較調査対象とし、変化する国内的状況と国際的世論のダイナミクスの中でのアボリジニの対応、交渉について調査を行なう。その知見を持って自己の調査地を改めてみつめなおすことにより、先住民と国家、国際社会という三者間関係について、広い視野からの深い洞察が得られることになると考えている。

本計画は 5 年間であり、以下の 4 つの部分から成り立っている。

(1) これまでオーストラリアを専門としてきた研究者による、現在の変化とアボリジニの対応についての研究

(2) 世界の他地域の少数者を専門としてきた研究者による、オーストラリアの状況についての比較調査

(3) オーストラリアでの知見を踏まえた上でのそれぞれの専門領域での調査

(4) 国際研究集会、および国際ワークショップでの、海外研究者との議論を通して得られる複眼的な視点

これら以上、4 つの成果を統合して、最終的な知見につなげる予定である。

2. 研究の進捗状況

上記の計画の (1) については、これまで

に、研究代表者、分担者、協力者によって調査が順調に進められてきており、他の分担者との情報交換を行ってきている。(2) については、初年度と 2 年次に、分担者の全員がオーストラリアを訪れ、アボリジニに対する政策とその現地での対応についての比較調査を行った。(3) については、オーストラリアでの調査の知見をもって、2 年、3 年次にそれぞれの専門とする調査地での比較調査を進めており、これについては、3 年次に開催されたワークショップである程度の成果報告がされた。そして、(4) については、毎年数回の国内集会に加えて、初年度と 2 年次にはオーストラリアのキャンベラでの国際研究会、3 年次には大阪での国際ワークショップと、これまでに計 3 回の国際研究集会を開催した。それぞれ場で、活発な議論がかわされ、全員の問題意識の明確化を図ってきた。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。
順調に、すべての調査、研究が進んでおり、昨年度(3 年度)の国際ワークショップでは、分担者以外にも多くの国内外の研究者が関心をもって研究にかかわってくれるようになってきている。最終年度に計画している国際シンポジウム、海外での出版計画もすでに具体化しつつあり、当初の計画以上に順調である。

4. 今後の研究の推進方策

計画の 4 年度にあたる本年は、昨年末の国際ワークショップでの議論を基礎として、それぞれの発表内容にコメントを加え、議論を深めて、この科学研究としての全体を貫く道筋を探っていく。そのために国内での集会を 2, 3 回予定している。コメントは、代表者と

分担者によるものだけでなく、先住民問題に関心をもつ海外研究者にも協力してもらえようようにすでに了解をとっている。これらを経て、それぞれの問題意識についての議論を深める場として、集会を生かしたい。

これは、最終年度の5年次に予定している国際シンポジウムに向けての作業である。国際シンポジウムは、3年次のものとは異なり、一般に公開し、通訳をつけて行う予定である。研究班メンバーを中心として、それ以外の、先住民のアイデンティティという問題に関心を持って研究を進めている若手にも、発表の機会としてもらう方向で考えている。

そして、シンポジウムの結果は、オーストラリア国立大学出版会からの出版を予定しており、すでにそのプロセスに向けた準備を開始している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① Kubota, Sachiko 'From Applied Anthropology to Anthropology of Engagement', In Musharbash & Barber eds. "Ethnography & the Production of Anthropological Knowledge", 123-132, ANU E-Press, 2011 査読有
- ② 窪田幸子 「オーストラリアにおける先住民政策の展開とアボリジニの実践」窪田・野林編『先住民とはだれか』90-112頁、世界思想社、2009年、査読有
- ③ 内堀基光 「先住民」の誕生」窪田・野林編『先住民とはだれか』61-89頁、世界思想社、2009年、査読有
- ④ 高倉浩樹 「先住民問題と人類学」窪田・野林編『先住民とはだれか』38-60頁、世界思想社、2009年、査読有
- ⑤ 丸山淳子 「開発政策によるサンの集住化と脱狩猟採集民化」岸上編『開発と先住民』231-253頁、明石書店、2009年、査読有

[学会発表] (計13件)

- ① Kubota, Sachiko 'Claiming Indigeneity- AINU people in Japan from comparative perspective', "Australian Anthropological Society, 6th December, 2009, Macquarie University(Sydney, Australia)
- ② Takakura, Hiroki 'On concept of indigenous peoples in Russia', "International Workshop: Negotiation of Indigenous

Identities", Dec. 4-5, 2010, National Museum of Ethnology, Osaka (Japan)

- ③ Uchibori, Motomitsu '(Re)thinking indigeneity in Malaysia, "International Workshop: Negotiation of Indigenous Identities", Dec. 4-5, 2010, National Museum of Ethnology, Osaka (Japan)

[図書] (計3件)

- ① 丸山淳子 『変化を生きぬくブッシュマン—開発政策と先住民運動のはざままで』337頁、世界思想社、2010年、査読有。
- ② 窪田幸子、野林厚志編『先住民とはだれか』352頁、世界思想社、2009年、査読有。
- ③ 吉岡監修、遠藤央、印東道子、中沢港、窪田幸子、風間計博編『オセアニア学』569頁、京都大学出版会、2009年、査読有。